

## 特別企画：四国地区の紙製品製造企業業績調査

### 2015年度の総売上高は前年度比9.5%増、利益合計は41.4%増加 ～高い紙加工技術を活かした製品が企業業績に貢献～

#### はじめに

四国には1000年を超える紙産業の歴史があり、四国経済を支える重要な柱の一つとして地域に貢献している。愛媛県の四国中央市は静岡県の富士市と並ぶ紙産業の集積地であり、高知県、徳島県も古くから和紙の生産が行われていた。生産活動だけではなく、紙の研究活動も盛んで、愛媛県紙産業技術センターや高知県立紙産業技術センターなどの公的な研究機関があるほか、愛媛大学には紙専門の大学院が設置されている。

帝国データバンク高松支店では、紙製品の製造状況を探るため、四国に本社を置く紙製品製造企業の業績がどのように推移しているかを2013年度から2015年度の3年間の売上高、利益（当期純利益、以下同じ）でみるとともに、売上高上位企業を抽出した。

※ 「パルプ・紙・紙加工品製造業」を主業とする企業のうち、2013年度～2015年度の年売上高が比較可能な296社を対象に実施。

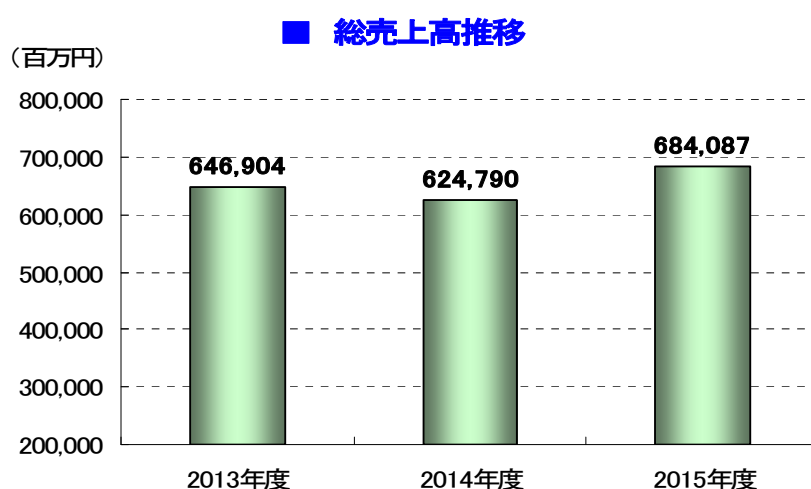
#### 調査結果（要旨）

1. 四国に本社を置く紙製品製造業者296社の2015年度の総売上高は前年度比9.5%増の6840億8700万円。
2. 上記296社のうち、2015年度に増収だった企業は37.9%となり、減収(31.4%)より多かった。2014年度(39.9%)と比べると、増収企業は減少していた。
3. 3年度連続で利益が比較可能な153社の2015年度の総利益額は前年度比41.4%増。48.4%の企業が増益となり、減益と同比率であった。2014年度(32.0%)と比べると増益企業は増加していた。
4. 2015年度は、売上高上位10社の殆どが増収。高い技術を活かした高付加価値品が業績に貢献していた。

## 1. 総売上高

四国に本社を置く紙製品製造企業 296 社の 2015 年度の総売上高は前年度比 9.5%増の 6840 億 8700 万円で 2 年ぶりの増収となった。2014 年度の総売上高は 6247 億 9000 万円と前年度比 3.4% 減だったが、2015 年度は増収に転じ、2013 年度（6469 億 400 万円）を上回った。

2015 年度の総売上高が増えたが、高付加価値品の販売を伸ばした企業や、福祉や医療向けなど成長分野にかかわる製品が好調だった企業が多かった。また、紙おむつやマスクなどがインバウンド消費で伸びたことや、2014 年度に大手企業の決算期変更があったことなども影響した。



## 2. 売上高動向

上記 296 社の売上高の動向をみると、2015 年度に「増収」となった企業は 37.9%と、「減収」(31.4%) よりも多かった。

2014 年度と比較すると、「増収」となった企業割合は 2.0 ポイント低下し、「減収」も 0.7 ポイント低下していた。このことから、2015 年度の総売上高の増加は、「増収」となった企業が増えたのではなく、「増収」だった企業の売上高の増加率が大きくなったことが主な原因であることがわかった。

2 年続けての動向をみると、連続して「増収」となった企業は 20.3%だった。一方、連続して「減収」となった企業は 11.8%であった。

### ■ 増減収状況

	2014年度		2015年度	
	社数	構成比(%)	社数	構成比(%)
増収	118	39.9	112	37.9
うち2期連続増収			60	20.3
減収	95	32.1	93	31.4
うち2期連続減収			35	11.8
横ばい	83	28.0	91	30.7
合計	296	100.0	296	100.0

### 3. 収益動向

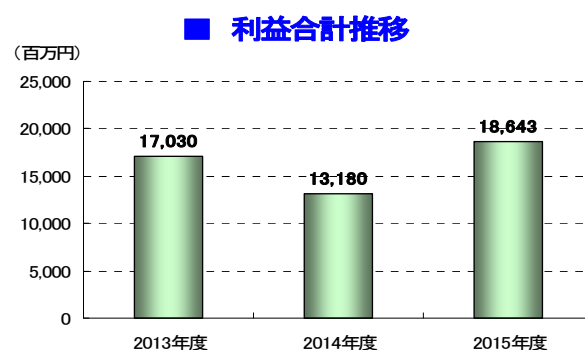
上記 296 社のうち、3 年度連続で利益が比較可能な 153 社の 2015 年度の利益合計をみてみると、前年度比 41.4% 増の 186 億 4300 万円であった。

その 153 社のなかで、2015 年度は 48.4% の企業が「増益」となっており、「減益」（48.4%）と同比率となった。

2014 年度と比べると「増益」が 16.4 ポイント上昇し、「減益」が 15.7 ポイント低下していた。

2 年続けての収益動向をみてみると、連続して「増益」となっていた企業は 12.4% で、連続して「減益」となった企業（28.1%）よりも少なかった。

2015 年度の利益合計が増加したのは、高付加価値品の売上高を伸ばした企業が多かったことが主な要因だと思われる。



■ 増減益状況

	2014年度		2015年度	
	社数	構成比(%)	社数	構成比(%)
増益	49	32.0	74	48.4
うち2期連続増益			19	12.4
減益	98	64.1	74	48.4
うち2期連続減益			43	28.1
横ばい	6	3.9	5	3.2
合計	153	100.0	153	100.0

### 4. 売上高上位 10 社

1 位となったユニ・チャームプロダクツは、紙おむつや生理用品国内トップの東証 1 部上場企業ユニ・チャームの製造子会社。観音寺市内にある 3 カ所の工場のほか、静岡県と福島県にも製造拠点を構えており、親会社が販売する「ムーニーマン」や「マミーポコ」などの紙おむつ、「ソフィ」などの生理用品を製造している。

2015 年 12 月期は、フェミニンケア商品の販売が、新製品の投入や宣伝活動強化により好調であったことや、紙おむつも国内販売が好調であったことから、売り上げを伸ばした。

2 位となった丸住製紙は、新聞用紙や印刷用紙を主力商品としており、包装紙やクラフト紙も製造し、洋紙生産では国内 8 位となっている。四国中央市内に 2 カ所の工場を開設、新聞用紙については、新聞社に直接販売しているが、印刷用紙などは商社を通じて販売している。

2015年11月期は、雑誌や出版業界の不振から主力商品の売上高は減少したが、包装紙やクラフト紙の売上高が、市場拡大や販売価格の上昇で伸びたことから、主力商品の落ち込みを補い、全体の売上高は増収となった。

3位のエリエールプロダクトは、国内製紙業界第4位（連結売上高）の大王製紙の製造子会社。四国中央市の3カ所の工場のほか、栃木県、静岡県、福島県に工場を開設しており、国内に合計7カ所の生産拠点を置いている。大王製紙が販売する子供用紙おむつ「G.O.O.N」、大人用紙おむつ「アテント」「ナチュラ」、家庭紙「エリエール」、生理用品「エリス」、ペット用品「エルル」を製造している。

2016年3月期は、高齢者の増加により大人用紙おむつの販売が堅調であったことや、高価格の家庭紙販売を中心に販売量を維持したこともあり、微増となった。

売上高上位10社の事業内容をみると、殆どの企業が増収となっていた。日用品を製造する企業が多いが、高い紙加工技術を活かして、日用品以外の工業用製品など幅広い用途の製品を製造していた。

なお、長年四国の紙製品製造企業のなかで売上高トップであった大王製紙は、東京本社（東京都千代田区）と四国本社（四国中央市）を構える体制をとっており、TDBでは2013年7月から東京本社を本社所在地としている。

#### ■ 四国 紙製品製造企業2015年度売上高上位10社

（単位：百万円）

順位	社名	所在地	最新期売上高
1	ユニ・チャームプロダクツ株式会社	香川県観音寺市	137,239
2	丸住製紙株式会社	愛媛県四国中央市	64,129
3	エリエールプロダクト株式会社	愛媛県四国中央市	58,161
4	株式会社リブドゥコーポレーション	愛媛県四国中央市	41,773
5	愛媛製紙株式会社	愛媛県四国中央市	26,281
6	大塚包装工業株式会社	徳島県鳴門市	14,519
7	新タック化成株式会社	香川県三豊市	14,128
8	阿波製紙株式会社	徳島県徳島市	13,274
9	ユニ・チャーム国光ノンウーヴン株式会社	香川県高松市	12,361
10	株式会社フクヨー	愛媛県新居浜市	11,393

※2015年4月期～2016年3月期が対象

## まとめ

今回の調査で、四国の紙製品製造企業の2015年度の総売上高、利益合計が増加していたことがわかった。また、売上高については、増収となった企業の方が多いが、収益面では増益、減益が同比率となっていたことも判明した。売上高上位10社をみると、日本を代表する紙製品製造企業が四国に製造拠点を置いていた。また、高い紙加工技術を活かして幅広い分野に進出しており、四国の紙製品製造企業が、紙業界で重要な位置を占めていることが改めてわかった。

大王製紙グループが約210億円を投じて生産能力増強を進めるなど、四国の紙製品の製造拠点には、積極的な投資が継続して行われており、その重要性が衰えることは考えにくい。四国の紙製品製造企業が、他の企業に真似のできない高い技術を活かした製品を販売し、これまで以上に、四国経済に貢献していくことを期待したい。

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

(内容に関する問い合わせ先)

(株) 帝国データバンク 高松支店 担当：伊藤

TEL:087-851-1571 FAX:087-851-3837